

射水市作品コンテスト 3部門優秀賞36名を表彰



▲ひとりひとりに推進委員長の夏野元志市長より表彰状が贈られました

いみずこうせいほく
射水更生保護

発行編集 **射水保護司会**
会長 江尻 昭

TEL 0766-51-6625
〒939-0284
射水市新開発410番1
射水市福祉保健部
地域福祉課内

第67回

社会を明るくする運動

11月25日、射水市作品コンテストの表彰式をアイザック小杉文化ホールラポールで行いました。このコンテストは、毎年「社会を明るくする運動」事業の一環として射水市推進委員会と射水保護司会の学校部会が中心となり、児童・生徒が身近なことから「非行や犯罪のない社会の実現」について考えるきっかけとなることを目指して実施しています。

来賓として、中村文隆射水市議会副議長、門田晋射水市共同募金委員会、杉本茂射水市教育委員会事務局次長、山本修射水地区更生保護雇用主会長、道古正子射水市更生保護女性会長にご臨席を賜りました。

表彰式では推進委員長の夏野元志市長より、入賞者ひとりひとりに賞状と副賞が贈られました。優秀作品は、10月24日より11月7日まで射水市役所の一階ホールに展示させていただきました。

◆ 作品コンテストを担当して

学校部会 副部長 表 隆夫

5月下旬より募集の準備に入り、6月上旬に各小中学校に募集を呼び掛けました。例年、この作業は特定の数人の保護司で実施されてきましたが、今年度は、それぞれの保護司と学校のつながりをさらに深めたいとの思いがあり、学校部会を中心としたうえで「できるだけ学区内の保護司」に、さらに「なるべくたくさんさんの保護司」に募集に関する作業に携わってもらうことにしました。

9月上旬に、担当の保護司が作品を回収しました。射水市内の全ての小学校15校、中学校6校から応募があり、総数は1404点となりました。(作文559点、ポスター219点、標語626点)

各学校にお願いして、作文・ポスター・標語をそれぞれ3点まで絞って提出していただきましたが、それでも集まった作品は膨大な数となりました。

『更生保護サポートセンター射水』 月曜日から金曜日 / 午前9:30～午後3:30まで

射水市役所大門庁舎 車庫棟2階
〒939-0234 射水市二〇1081番地

電話：0766 (52) 7696
FAX：0766 (52) 7697

E-mail: imizuhogoshikai@gmail.com
ホームページ URL: hogosi.com

※保護司が交代で常駐しています。

第67回

社会を明るくする運動

優秀作品の選考は、9月12、13日の両日に、学校部会・三役・有識者がサポートセンターで実施しました。

作文においては、普段の生活の中に見出したテーマが多く、いずれも甲乙つけがたいものでした。またポスターでは、描画の技巧の高さに感心させられ、また絵に温もりが感じられるものが多くて選考に苦慮させられました。

11月25日に行われた表彰式では、作文の部11名、ポスターの部13名、標語の部12名が表彰されました。

記念撮影のあと特別出演として、県大会に市代表として出場した牧野将也さん（小杉中学校3年）の生活体験発表をお願いしました。また優秀作品の作文のうち、富山県の選抜選考会に推薦された次の四名に作文を発表していただきました。

視線を下げずに、原稿をほぼ暗記した状態で発表する子どもがいるなど、学校や保護者の方の援助が垣間見えて、頭の下がる思いでした。

- ◇歌の森小学校 6年 島田 魁人
 - ◇東明小学校 6年 堀川 紗菜
 - ◇大門中学校 2年 岡村 羽菜
 - ◇新湊南部中学校2年 澤村 理帆
- 島田 魁人さんの作品は、県の最優秀賞に選ばれ中央に推薦されました。



毎年、本コンテストの優秀作品を、市中学生生活体験発表大会優秀作品と共に冊子を作成し、関係各機関・団体・市内コミュニティセンターにお届けしています。

受賞された皆さん おめでとうございます

標語の部

放生津小学校	4年	若林 史奈
作道小学校	4年	渡辺 杏樹
塚原小学校	5年	甲谷 舞衣
堀岡小学校	4年	永田 優衣
東明小学校	1年	石井 愛華
小杉小学校	4年	高田 愛里
金山小学校	5年	浦口 結衣
金山小学校	6年	京角 麻央
歌の森小学校	4年	黒田 莉音
中太閤山小学校	5年	坂野 友洋
中太閤山小学校	5年	山口すみれ
新湊中学校	3年	高岡 由貴

ポスターの部

大門小学校	5年	浅井 千晴
中太閤山小学校	1年	熊本 恵祐
太閤山小学校	6年	堀川 詩音
小杉小学校	6年	高井夏那実
堀岡小学校	5年	宮本 莞奈
堀岡小学校	5年	海老江理音
片口小学校	6年	惣名 愛理
新湊小学校	6年	金子 彩羽
新湊小学校	6年	小澤 歩実
大門中学校	2年	今口 実玲
大門中学校	2年	敦賀 由愛
小杉中学校	3年	大菅 由愛
新湊南部中学校	2年	川辺 涼乃

作文の部

堀岡小学校	6年	岡島 楓華
東明小学校	6年	堀川 紗菜
歌の森小学校	6年	島田 魁人
歌の森小学校	6年	坪田 晴琉
下村小学校	6年	田中 佑奈
大島小学校	6年	森川 聖弥
新湊南部中学校	2年	澤村 理帆
射北中学校	3年	田中 愛也
小杉中学校	3年	小西 祐輔
小杉南中学校	2年	前坪 優来
大門中学校	2年	岡村 羽菜

長岡地区保護司会訪問記

射水保護司会長 江尻 昭

平成29年11月31日豊田副会長・棚田事務局長との3名で、新潟県「長岡地区保護司会」サポートセンターを訪問しました。場所は、長岡駅前にある、長岡ボランティアセンター「トモシア」(以下トモシア)の中です。射水サポートセンターは平成32年に社会福祉センターへの移転が計画されており、市街地におけるサポートセンター運営の参考にするためです。

この「トモシア」は、平成28年11月1日にオープンしたばかりの建物で、2階のフロアには10の団体が入居し、フロア全体がオープンスペースで各団体に部屋としての仕切りがないこと、廊下全てのパネルがマグネット対応で、掲示物が貼りやすいことなど、建物だけでなく、利用コンセプトにも新しいものがありました。

サポートセンターでは、山崎会長、伊部副会長、野島事務局長に挨拶していただき、長岡地区保護司会の現状につ



▲「トモシア」フロアはオープンスペース

いて説明を受けました。長岡保護司会は97名の保護司で、地区を八分区に分け活動をされています。特筆すべき点は、「愛の協力運動」と言うテーマで、一般市民より、一人300円の法人助成金を頂き、運営をされていることでした。その他にも注目したい内容がいくつもありません。

今回の表敬訪問で得た情報を元に、射水保護司会でも色々と改革を進めていきたいと決意を新たにしました。これからも皆様のご協力をお願いします。

村木保護観察所長が射水市長を表敬訪問

豊田 博保

10月5日、村木康弘富山保護観察所長が夏野元志射水市長を表敬訪問し、江尻会長、新中副会長、棚田事務局長、林広報部長が同行しました。村木所長は、雇用主会が保護観察対象者の就職をしっかりとサポートしてくださり、山本雇用主会長が法務大臣感謝状を受賞された事を報告されました。また、平成32年度にサポートセンターを小杉福祉会館に移転することへのご協力に感謝している事と、今後も引き続き支援して頂けるように夏野市長にお願いをされました。



▲ 前 右：夏野元志市長
左：村木康弘富山保護観察所長

夏野市長は、今年度から適用される更生保護協力雇用主に対する入札参加審査に係る優遇制度が、富山県、富山市、高岡市について射水市にも適用された事で、対象者を雇い入れている事業者にポイントが加算され、落札しやすい環境になったと説明されました。また、「社会を明るくする運動」も射水市は海王丸パークでの街宣活動など、

積極的に運動を進めている事も話題になりました。夏野市長は『安心・安全な町づくり』を射水市のスローガンに掲げており、対象者も更生しやすい社会づくりを目指していると述べられました。

村木所長は市長訪問前にサポートセンターに寄られ、保護観察対象者との面接会場になっていたり、企画調整保護司が常駐している事も感心しておられました。当日は和室に満員で更生保護女性会の理事会が行われており、日頃の活動にお礼のごあいさつをされました。

薬物乱用の低年齢化が進んでいることも懸念され、小学校での薬物乱用防止教室が活発に実施されている射水に感謝されていました。

雇用主会のメンバー数も射水は多く、しっかりと組織を組んで就労支援をしていることに感動されました。江尻会長が、今後一層の犯罪予防に努めていきたいと考えていますと、約束されていました。

サポートセンターの役割

サポートセンター長
森田 ひとみ

射水サポートセンターが開設されて6年がたちましたが、県内各地域でもサポートセンターが開設されるようになり、「サポートセンター運営協議会」が行われるようになりました。ここでは、観察所からの運営上の連絡や各センターの運営の方法についての報告や協議がされます。どの保護司会も地域の実情や制約の中で運営の仕方に知恵をしばっていることが伺えました。中でも氷見のサテライト方式は、地理的な条件を克服するために、よく考えられた方法だと思われまます。

このような中で、射水のサポートセンターは、恵まれているといえます。企画調整保護司の駐在体制や部会としての活用の体制も回を追うごとに整ってきています。今年度は、「地域との関わり」を深めるために「社会を明るくする運動」の作品募集の取り組みに関して保護司各位の居住している校区を担当していただき、作品応募への呼びかけや作品の収集・返却などの活動に多くの協力をいただきました。

この取り組みへの連絡調整については、サポートセンターが拠点としての力を発揮しました。また、作品集の作成に当たっても原稿の打ち込み・校正などに駐在の企画調整保護司が協力して関わって頂きました。今年度の取り組みは、より多くの保護司各位に関わっていただくことができました。このような活動の拠点としての役割を支えているのは、サポートセンターの雰囲気です。居心地がよく立ち寄りやすい拠点となるように心がけていきたいと思えます。

更生保護サポートセンターとは

更生保護サポートセンターとは、保護司・保護司会が、地域の関係機関・団体と連携しながら、地域で更生保護活動を行うための拠点です。その多くは保護司会が市町村や公的機関の施設の一部を借用し、開設しており、そこでは、経験豊富な「企画調整保護司」が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や関係機関との連携による地域ネットワークの構築等を行っています。

また、保護司を始めとする更生保護ボランティアの会合や更生保護活動に関する情報提供の場としても活用されています。

平成20年度から整備し、平成28年度までに全国459か所に設置しました。そして、平成29年度予算で、新たに42か所を設置し、全国合計501か所となる予定です。(法務省ホームページより)



射水市更生保護女性会だより

市更生保護女性会理事研修 に参加して

12月11日(月)、冬の雨、あいにくと
 思う心をなだめながらバスに乗った。
 「雨の日ゆえに、年末の掃除など家事
 をちよっとおいて研修に臨みやすいか
 も。良い日になったのでは…」の会長
 挨拶。全くその通りだと思った。変え
 ようのない事なら何事も良いにとらえ
 活かすと、早くも心の研修。



互いに近況、連絡、報告しあってい
 るうちに最初の研修場所、富山県美術
 館に到着。企画展は開館記念展パート
 2「素材と対話するアートとデザイン」。
 木や金属、ガラスなど素材とそ
 の変容をテーマとした作品群。どの作
 品にもデザインの斬新さや素材の隠さ
 れた魅力に驚き、愉しんだ。

常設展では、藤田嗣治の「二人の
 裸婦」をはじめ名だたる絵画の数々、
 『20世紀の椅子の名作展』などを各自
 思い思いに堪能し、感性のリフレッ
 シュ？

場所をアーバンプレイス14階『俵
 屋』に移してランチ。手頃な値段なが
 ら、美しく季節を盛り込んだ料理を味
 わい、抜群の眺望の中、日頃の活動に
 生かそうと情報交換。

午後は「運河のほとりのガラスのや
 かた。遊んで、学んで、感じて、ここ
 はキミが夢と出会う場所」と銘打った
 『KNB いたりふね子供館』を訪れた。
 案内員の方のお話を聞き、放送局らし
 いアイデア一杯の設備を体験したり、
 国内外えりすぐりの絵本に触れたりし
 た。大いに見聞を広めた一日になった。

(S・T)

島原手延べそうめん販売収益の報告

平成29年度収益金 **157,950円** (243箱分)

今年度も、富山県更生保
 護女性連盟の事業として、
 島原手延べそうめんの販売
 が企画されました。
 当事業の収益金は、富山
 県更生保護女性連盟および
 地区更生保護女性会の活動
 支援に充てられます。
 平成30年度に富山養得園
 全面改築が行われる事から、
 建築に伴う寄付金の要請が
 あり、本会としまして、
 2年にわたり拠出すること
 としています。
 お陰さまで、多くの方々
 のご尽力により収益が倍増
 しましたことをご報告しま
 すとともに、皆様の多大な
 ご協力に心より感謝申し
 上げます。

受賞おめでとうございます

- ◆中部地方更生保護委員会委員長感謝状
石黒 ヒロ子
- ◆中部地方更生保護女性連盟会長表彰
東保 恵子
- ◆富山県保護観察所長感謝状
大岡 広子
- 龍本 泰代
- 古城 史子
- 牧野 好美



平成29年度事業の概要 (平成29年9月～30年2月)

- 平成29年**
- 9月11日 県更生保護女性連盟理事会
- 9月20日 市更生保護女性会役員会
- 9月26日 中部地方更生保護女性の集い
- 10月1日・2日 赤い羽根共同募金運動
- 10月18・19日 保護司・更生保護女性会員
合同県外研修視察
- 11月17日 県更生保護大会
- 12月7日 県更生保護女性連盟会員研修
- 12月11日 市更生保護女性会理事研修
- 平成30年**
- 1月7日 富山養得園へ給食活動
- 1月14日 (塚原・中伏木)
- 1月21日 富山養得園へ給食活動 (大島・下)
- 1月22日 県更正保護女性連盟理事会
- 2月3日 市更生保護女性会全体研修

養得園給食活動

「養得園給食活動は1月7日、塚原地区と庄西地区ですよ」と案内を受け塚原地区と庄西地区で打ち合わせを行い、それぞれの献立の準備に入りました。

「正月だから、やはり黒豆の煮物も必要かね」などと言いながら煮物、酢の物、一口カツ、牛蒡のきんぴら、ハムやたまご焼き、生野菜など彩にも気を配り、盛り付けをしました。

担当者は、地区が違って顔見知りや経験者ばかり、和気あいあいと活動することができました。

料理方法には各家庭によって違う点もありますが、「これはこうして切れば、見栄えもよくおいしそうだね」とお互いに参考になることも多々あり、とても良い機会となります。

いつもは10人以上の食事を準備していましたが、今回は8名分でした。なんでも多い方が良いと思いますが、この活動は、援助を必要としている方が少ないほうがよ



いわけで、何か安堵しておりました。

話によれば養得園は老朽化のため、全面改築されるとか。収容人数も18名から20名になるという事でした。この給食活動が少しでも社会復帰の役に立てればうれしく思います。

季節は冬、天候を気にしておりましたが、晴れ晴れとしたとても良いお天気に恵まれ、眼の前の雄々しい立山連峰も応援してくれているようで、何かしら満足感に浸りながら帰路につきました。

(S・F)



更生保護法人富山養得園について

富山市太郎丸に更生保護施設富山養得園があります。最初に施設ができたのは明治32年のことです。本園は、富山保護観察所の指導のもとに、非行した少年、刑務所から出所した者、刑の執行猶予や起訴猶予の処分を受けた人で、身元引受人がなく保護を必要とする人を収容しています。

規律ある中にも、自由で暖かい雰囲気にも包まれた生活の中で、生活指導、更生相談、就職のあっ旋などの補導援助を行って自立更生させ、社会復帰をさせることを目的として運営されています。

私たち更生保護女性会の活動のひとつに養得園への給食支援があります。毎週日曜日の夕食を、県内の更生保護女性会で分担して行い、年45回になります。

吾作は身を投げた〜更生保護施設の始まり

更生保護施設の誕生の歴史には、ある悲しい出来事がありました。明治時代のこと、静岡の監獄から釈放された吾作という一人の男がいました。かつてはあらゆる罪を重ねた吾作も、副典獄今でいえば刑務所の副所長であった川村矯一郎の熱心な指導に心を入れ替え、真人間になることを誓って監獄を後にしました。しかし10年ぶりに家に戻ると、妻は別の男性と暮らしており、やむなく親類を頼ったものの追い返され、宿なしの身となっていました。せつなく更生を誓ったというのに、親族からも見捨てられた吾作は、川村典獄に宛てた書置きを残し、ついに池に身を投げ自らの命を断つてしまいました。吾作の書置きを読み、強く心を痛めた川村副典獄は、実業家の金原明善(きんばらめいぜん)に相談しました。金原は地域の人々に呼びかけて協力を募り、明治21年には、監獄から釈放された人を保護する施設を作りました。それが更生保護施設の始まりです。

各地区の皆さんは、限られた予算の中で工夫をこらしメニューを考えます。季節の新鮮な野菜を持ちより、気持をこめて手作りします。会場では皆さん笑顔です。母の心で作った家庭料理を喜んで食べてくれる様子が見えてきて、自分たちも元気になるからです。当日参加できない会員の方から、材料等の提供を受けることもあって、会員間の絆をうれしく思います。

罪を犯した人が深く反省し努力することとはもちろんですが、同じ社会に暮らす私たちの理解と優しい気持ちをもつての応援・支援は、ささやかでもきつと大きな後押しになります。

「何かあったら助けるよ、安心していいよ」支える方法は様々です。私たちに何ができるのか一緒に考えて、できることから始めましょう。

犯罪や非行のない、安心安全な明るい社会を目指して。

(T・K)

射水市更生保護女性会だより



県外視察研修

研修部会長 瀧内 一雄

近年、保護観察対象者として薬物使用者が増えつつあります。子供のころから薬物の恐ろしさを知ってもらうため射水保護司会では市内3つのライオンズクラブと協力して小学校へ赴き5・6年生を対象に薬物乱用防止教室を開催しています。

また8月には保護司の皆さんに薬物依存症からの回復と社会復帰を目的とする民間施設であるダルクの存在を知ってもらうため、富山ダルクから講師をお招きし研修を行いました。

更に皆様にダルクを実際に見て、理解していただくため県外研修として10月18日・19日の両日、保護司会と更生保護女性会の会員33名で滋賀・びわ湖ダルクを訪問しました。

施設を見学した後、意見交換を行いました。ダルクでの生活状況に対する質問が多く出ました。当番制で規則正しい生活を送っている様子や、積極的に町内の行事やボランティア活動に参加して住民と良い関係を築き、住民として認めてもらっている状況などを丁寧に答えていただきました。

施設長をはじめ全員が薬物経験者であり、20数年経った今でも薬物への欲求が頭をよぎるほど恐ろしい実態や、薬物によって失った家族に対する後悔

の思いなど、なまなましい実態を話していただきました。

保護観察中に保護司から薬物は絶対だめだと何度も言われたが、これは空論であって、やったものでしか薬物の恐ろしさはわからないと言われたことが一番心に響きました。すべてを失ったいまだから言える言葉なのかもしれませんが、ダルク入所者の本当の気持ちは、自分たちにしかわからないというお互いの信頼がダルクを支えているのだと思いました。

私は薬物対象者を担当したことはありませんが、今回の研修や事前打ち合わせで真の言葉、たくさんのお話を聞けたことで、今後に役立つ大変有意義なダルク訪問体験となりました。

ダルク (DARC)とは

Drug Addiction Rehabilitation Centerの頭文字をとった民間の薬物依存症回復施設です。

さまざまな薬物（覚醒剤・有機溶剤（シンナー等）・市販薬など）から解放されるためのプログラムを実践しています。

薬物依存者はまず、「今日一日薬物を使わないで生きる」ことからスタートします。それを毎日更新し続けることによって薬を使わないクリーンな生き方をし、回復していきます。

(びわこダルクHPより)

サポートセンターだより

「サポートセンターでの体験」

藍口 信子

保護司にとって、サポートセンターは面接の場、研修の場、悩み相談の場、そして交流の場といういろいろな役目を果たしています。そのサポートセンターでは私は、初めて貴重な体験をすることができました。

当時、新人保護司の負担を軽減するため、ベテラン保護司との複数担当保護観察が提案されていました。

思いがけず私にその機会が訪れました。そして対象者のAさん、先輩保護司、私の3人での面接が始まりました。面接回数が進むにつれて私はなんとなく、重苦しい雰囲気を感じるようになりました。「この感じって何だろう?」と思いつつ、ある日思いつきで我が家の漬物を「ヒーと一緒に出しました。Aさんは漬物を「美味しい」と一言。一瞬その場の空気が和らいだように感じました。話によるとAさんは今は一人身とのことでした。それ以来、面接のときは家庭的な雰囲気になるように「ふきのとうの佃煮」、「枝豆」、季節の野菜の漬物、果物などを持参し、面接後の話題づくりをしました。次第にAさんは冗談を言うほどに打ち解けてくれました。



Aさんは交通手段は公共の乗り物、往訪は絶対ダメ、通信方法は皆無でした。そのため、先輩保護司はいろいろと苦労をなさった様子でした。私は連絡方法が一番心配でした。でも、Aさんは、月2回の来訪は一度も忘れることもなく、面接時間より早く来て、サポートセンターの前で待っていることも度々ありました。

面接開始から2年くらい経ったある日、突然Aさんは勤務先の関係で他の保護区に転居が決まり、私たちの保護観察は終了となりました。Aさんは、「できるなら、こっそり面接を受けたいなあ」と言っていて、去って行きました。

先輩保護司とは、その後もAさんの事が話題になるほど、心に残る複数担当保護観察でした。



各部会活動報告

◆総務部会

総務部会は理事会（正副会長・各正副部会長で構成）を兼ねており、研修・保護観察、地域活動、協力組織、学校、広報の各部会が担当しない行事や事務および関係機関との連絡調整を行っています。

◆研修部会

今年度研修部会長を引き受け、慣れないせいがあるものの、定期研修のあとの自主研修の企画、地域処遇会議としてのSST研修の開催、東京での西日本地区のSST研修への参加、県外研修旅行の企画・実施など、とても忙しい日々でした。

◆地域活動部会

7月9日(日)に、富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会より強力依頼があり、「アル・プラザ小杉」での「街頭キャンペーン」に参加させていただいた。

メインである7月17日(月)海王丸パークでの「社会を明るくする運動」街頭宣伝活動に会員、更生保護女性会の皆様のご協力をいただき、地域活動部会としての主たる活動を終えることができました。

作品コンテスト、薬物乱用防止教室へのご協力もいただき感謝申し上げます。

◆学校部会

11月25日、ラポールに於いて、「社会を明るくする運動」小・中学生作品コンテストの表彰式を行いました。

満席の来場者が祝福する中で、作文・ポスター・標語の3部門で36名が表彰されました。表彰式当日、会場に展示した優秀作品の前で受賞者の家族が記念写真を撮る姿も見受けました。

作品募集を通して、犯罪や非行のない社会をつくるために、小・中学生の一人ひとりが参加するきっかけになることを願っています。

◆協力組織部会

平成29年12月15日(金)富山市総合福祉センターに於いて平成29年度保護司会・更生保護女性会・BBS会連携強化研修が実施されました。

平成26年3月に決定された「更生保護ボランティアの協働に関する三者宣言」を踏まえ、本年度は仙台市の保護司大沼えり子氏原作の映画「君の笑顔に会いたくて」の試写会を兼ねて実施されました。地域の中に校正保護の心を語るものとして、「社会を明るくする運動」の強化月間に向けて各地で上映が検討されています。

◆広報部会

- 4月7日 県広報編集委員会
- 5月24日 県広報編集委員会
- 8月 「射水更生保護」23号発行
- 10月13日 県広報編集委員会
- 11月27日 広報部会
- 1月19日 県広報編集委員会
- 2月1日 作品集発行
- 2月22日 「射水更生保護」24号発行



平成29年度 授章・受賞者紹介 (順不同・敬称略)

◆藍綬褒章

新中 孝子

○中部地方更生保護委員会委員長表彰

富岡 民生

○中部地方保護司連盟会長表彰

堀 浩昭

本江 重吉

室田 清一

森田ひとみ

(内助功労者)

新中 隆志

○富山保護観察所長表彰

小杉 一彦

佐伯日登美

○富山保護観察所長感謝状

(家族功労者)

旭 あき子

林 理

○富山県保護司会連合会会長表彰

高田 大介

棚田 孝

豊田 博保

○法務大臣感謝状

米澤 治夫

○市政功労表彰

寺腰 健一

○射水市社会福祉協議会会長表彰

旭 邦彦

林 弥生

射水保護司会事務局日誌

平成29年度の行事及び行事予定をお伝えします

- 8月22日 第2期定期研修会
自主研修会
- 8月24日 保護司候補者検討委員会
- 9月12日 第6回三役会
第3回理事会
- 9月13日 作品コンテスト審査会(作文)
作品コンテスト審査会(作文)
(作文・ポスター・標語)
- 9月21日 保護司特別研修
- 9月22日 県事務担当者協議会および
サポートセンター運営協議会
- 9月28・29日 市更生保護協会会員企業訪問
- 10月10日 第7回三役会
- 10月18・19日 県外視察研修
(滋賀県 琵琶湖タルク)
- 11月10日 薬物乱用防止教室(作道小)
- 11月14日 第8回三役会
- 11月17日 富山県更生保護大会
- 11月25日 市作品コンテスト表彰式
- 12月5日 第3期定期研修会
自主研修会
- 12月8日 県総務部会協議会
- 12月12日 第9回三役会

12月15日 保護司・更生保護女性会・
BBS会連携強化研修

平成30年度の行事予定をお伝えします

- 12月27日 サポートセンター大掃除
- 1月9日 第10回三役会
- 1月16日 社会貢献活動
- 1月17日 薬物乱用防止教室(塚原小)
- 1月25日 薬物乱用防止教室(太閤山小)
保護司候補者検討協議会
- 1月31日 薬物乱用防止教室(金山小)
- 2月1日 薬物乱用防止教室(中太閤山小)
- 2月6日 第4期定期研修会
自主研修会
- 2月8日 薬物乱用防止教室(片口小)
- 2月9日 薬物乱用防止教室(下村小)
- 2月13日 第11回三役会
- 2月14日 薬物乱用防止教室(堀岡小)
- 2月15日 薬物乱用防止教室(小杉小)
- 2月22日 薬物乱用防止教室(歌の森小)
- 3月13日 県広報部会協議会
第12回三役会
- 3月28日 企画調整保護司打合せ会
第4回理事会

退任に寄せて

米澤 治夫

昭和六十年に保護司を拝命して三十二年、平成二十九年十二月に任期を満了しました。

永きに亘り、法務省、中部委員会、富山保護観察所の方々にご迷惑・ご無理をおかけしたことをおわび申し上げなければなりません。そして先輩・同僚保護司の皆様方にも、同様ですが、さらにお世話になったことに感謝申し上げます。

京都清水寺の森貫主さんがおっしゃったお言葉に、「上から見ることと、下から見ること、大違い」があります。

この言葉から、富山県知事であった中沖先生が「環日本海・東アジア諸国図」を作成されました。私達が日頃見

ている日本地図を逆にしたものです。

私達保護司であるものは、加害者であった対象者の世話をするに当たって、常に被害者のことを念頭に置かなければならないと説いて、保護司活動に専心しなければなりません。

これからも富山県と射水保護区の保護司の皆様のご活躍を祈念しております。

ほんとうに永い間、お世話になり、ありがとうございました。

※米澤治夫氏は旧射水保護区の事務局長として市町村合併による新射水市の誕生に伴う、旧新湊保護区との合併にご尽力されました。

また、射水保護司会長、富山県保護司会連合会長として、保護司会活動の牽引役としても活躍されました。

保護司の異動・退任

(敬称略)

○新任保護司

(平成29年12月21日付)

藤岡 由美

○退任保護司

(平成29年12月20日付)

米澤 治夫

フォローしてみませんか

法務省保護局ツイッター

法務省から、ホームページ、YouTube、ツイッターなどで様々な情報が提供されています。保護局ツイッターでは、各地の行事の紹介や更生保護に関するわかりやすい説明などがリアルタイムに発信されています。



編集後記

今年の干支「戌」は忠実で社会性や人付き合いも上手で安産で、何かを生み出す。言い換えればスタートの意味も有るそうです。あやかっして私達も情報交換や知恵を出し合いながら保護司会の更なる前進に繋げるべく、そんな場としてサポートセンターや本紙をご活用ください。

寺腰記